

うべきであったろうと思う。

10 医療報告

苗村元

今回のような飛行機による入山は、道というものがほとんどないアラスカでは有用である。しかし未知の氷河上に降り、帰りの便が来るまで外界と不通になることは、そこに非常な危険を含んでいるようだ。もし万が一の場合、徒步による人家までの脱出には、BCから少くとも6日以上かかる。それもほとんどの行程が氷河である。クレバス、氷、大河等の障害があり、負傷者を搬出するとなると、その倍以上の時間がかかる。この場合の対策として、無線機を携行し常にパイロットと連絡をとることである。私達もパイロットから借用できるはずであったのだが、相手側の都合により借りられなかった。またチェックフライトも2回依頼したが、2回とも天候悪くチェックされなかつた。

医療係としては無線機のことを最初から考慮に入れて、救急用品程度しか用意しなかつた。また私自身、専門的な医学知識をもつものでなく、難かしい症状を判断したり、医療器具を要するような場合は、なんとも仕様がなかつた。全くもって危険な状態であったと言える。幸いにも怪我、病気一つなく、大事をまぬがれた。全員がこの状態を考え、常に注意を払った由であろう。それに高度による障害も起こることはなかつた。しかし食糧の破損による栄養不足、特に後半の食いのばしなどから、全員の疲労の蓄積は大きかつたようである。BC地点が氷河上ということもあって休養が充分できなかつたのも原因である。期間的には限界寸前であったといえる。ビタミンは、隔日毎に総合ビタミンを服用、それにビタミンCも服用した。高度の低い氷河上では、足を濡すことがよくあったが凍傷にはならなかつた。

ヒルドイドとビタミンE等、血流改善剤を持参していたが、これもほとんど使用しなくて済んだ。どれもこれも幸運に恵まれたのであるが、医師の参加がない場合には外界との密な連絡がぜひとも必要であるというのが最大の反省である。

おわりに医療に関してご協力下さった方々並びに製薬会社に深くお礼申し上

げます。

医 療

| 薬 品 名 | 用 途 | 数 量 |
|-----------|-----------|--------|
| アトホーム | 健胃・消化 | 15袋×10 |
| 武田胃腸薬 | " " | 120T |
| ビオフェルミン | 胃腸解毒 | 300T |
| サラリント | 緩下 | 30T×5 |
| スルカイン | 胃粘局麻剤 | 100T |
| セイロガン | 解毒 | 200T |
| アミピロ | 解熱・鎮痛・神経痛 | 100T |
| パンピリン | 解熱・鎮痛 | 12T×5 |
| パンプロール | 鎮 | 100T |
| オペロント | 総合感冒 | 12T×5 |
| 強力ベンザ | " | 30T |
| ベンザ咳止め | 鎮咳 | 60T |
| トローチ | | 9T |
| パンピタンゴールド | 総合ビタミン | 150T |
| ハイシーA | ビタミンC | 100T |
| イベット | ビタミンE | 100T |
| アビフォルテール | ローヤルゼリー | 50T |
| シントマイセチン | 肺炎・赤痢 | 100T |
| ソルシリント | 合成ペニシリン | 100T |
| カピラーン | 末梢血流改善 | 120T |
| ヒルドイド | " | 30g×1 |
| オキシウル | 消毒液 | 1 |
| マーキュロ液 | " | 3 |
| アルコール | " | 1 |
| アンモニア | " | 1 |

| | | |
|----------|------|----------|
| ヨードチンキ | 消毒液 | 1 |
| ロート目薬 | | 2 |
| マイティア | | 2 |
| オロナイン | 軽火傷 | 10g×3 |
| レダコート | 湿疹 | 5g×5 |
| ピチロールバスタ | 皮炎 | 30g×1 |
| ムヒ | 虫さされ | 1 |
| 日焼止めクリーム | | 1 |
| ガオイル | | 1 |
| リップクリーム | | 1 |
| メンソレータム | | 2 |
| パテックス | 湿布 | 5×4枚 |
| ガーゼ | | 30cm×10m |
| 繻帶 | | 大中小 各2 |
| 脱脂綿 | | 20g |
| 油紙 | | 2枚 |
| 絆創膏 | | 3巻 |
| バンドエイド | | 80枚 |
| 体温計 | | 3 |
| ハサミ | | 1 |
| ピンセツト | | 2 |
| 眼帯 | | 2 |
| 毛ぬき | | 2 |
| タオル | | 1 |
| 爪切 | | |

1 輸送

苗村元

(1) 大阪—アンカレッジ